

# 新しい技術開発で、新しい明日をクリエイトする

井上スダレ株式会社 大阪府河内長野市

伝統を基本に、自社で開発した独創性のある技術や設備による技術開発型企業を目指しているのが井上スダレ株式会社である。簾すだれの伝統的な技術・技法を継承して100年。同社は、生活様式の変化により簾をインテリアデザインとして新たな需要を開拓している「スダレ部門」、そして30数年の研究開発により金属の特殊加工を実現した「金属加工部門」から成る。井上智史社長は、常に「明るく、楽しく、元気よい企業」を目指し、積極的な技術開発による発展的かつ堅実な経営を展開している。

## 会社概要



シンボルマーク

会社名：井上スダレ株式会社  
 所在地：大阪府河内長野市天野町1014-1  
 電話：0721-53-2581 (代)  
 F A X：0721-54-6506  
 創業：明治38年  
 設立：昭和37年10月  
 代表者：代表取締役 井上 智史  
 資本金：1,080万円  
 従業員：55名  
 事業：木製簾、竹製簾および竹製品の製造ならびに販売。  
 給水用樹脂継手部品加工。  
 電気工事業等。  
 URL：<http://www.sudare.co.jp/>

## 先取精神で技術開発型企業を目指す

井上スダレ株式会社は、明治38年に創業者である井上光三郎氏が簾を製造したのが始まりである。大正11年には大変な苦勞のすえに、従来の手編みを機械編みに切り替えることに成功した。昭和37年には法人組織化。そして同47年、簾という製品性による季節的な売上変動を安定させるために、全く分野の異なる給水用金属製継手部品の加工を手がける。平成9年には、中国に独資会社「富陽井上竹製品有限公司」を設立。現在、中国国内の竹を原材料に高品質な半製品を製造し、本社工場で加工して最終製品に仕上げている。

同社は、伝統を基本に、独自の技術や設備で新製品を開発している「スダレ部門」、そして給水用金属継手部品の加工など暮らしの縁の下を支える「金属加工部門」の二部門による経営を行っている。スダレ部門は、地域産業としての基盤をもつ日本の伝統的「竹製スダレ」をベースに、木と糸の織りなす華麗な「木製スダレ」、天然木そのままの木目を表現した「ブラインド」や「シェード（上下方向に昇降させながら開閉させる窓装飾品）」などの新製品開発に成功している。

金属加工部門は、独自の技術および設備を開発。先取精神と積極的な開発方針で特殊部品の製造を



本社・社屋



「用と美」を追求した新しい簾

実現し、製品の高度化・信頼性に高い評価を得ている。

## 「大阪金剛簾」の発祥地に資料館を開館

平成16年、同社は名勝天野山の「金剛寺」前に簾生産の伝統を継承するために「すだれ資料館」を開館した。資料館には簾に関する多数の資料、昔の製造機械や伊予簾、御簾、葎簾、萩簾、それに大変貴重な韓国簾、中国簾が整然と陳列されている。資料館の文献によると、弥生前期に魚を捕る道具「筌」が使われていたことが発掘によって知られており、「筌」が「簾」と技術的に酷似していることから、簾ができるまでには多くの時間がかからなかったと推測されている。また、記録としては7世紀中頃、万葉集にはじめて“簾”という言葉が登場している。

「江戸時代にはすでに大阪南河内地方の富田林および河内長野に簾の製法が伝えられていた。簾の材料になる竹はこの地に多く、生産者の近くの竹林や金剛山付近から供給した竹を原材料としていた」と、簾に造詣が深い堀川常務は語っている。こうした竹で伝統的な製簾の技術・技法で作られた簾が「大阪金剛簾」であり、平成8年に国の伝統的工芸品の指定を受けている。



「すだれ資料館」の展示品  
(一部)



竹幅を一定にする大割機

## 全社員一丸となってアイデアを出し合う

井上スダレ株式会社は、伝統的な技術・技法を

守り、今日まで「大阪金剛簾」を製造し続けてきた。現在でも日本では、簾は神殿や和風建築にはなくてはならない調度品であり、伝統的な簾が必要とされている。



熟練社員により製品化される簾工場

伝統の精神が息づく同社の製品は、他社製品よりも品質や独創性に優れており、現在の建築デザインに優れた適応性で応えている。そして、今日の厳しい建築基準や建築事情に適応できるように、製品企画、原材料選び、製造、検品、出荷まで、すべての工程を一貫して自社で行っており、井上社長の目が全社の隅々まで行き渡る体制を取っている。200アイテムにも及ぶ製品は、社員がとことん話し合い、アイデアを出し合い、顧客が満足してもらえるデザインや機能を追求したものである。

## 今後も多角的かつ意欲的な事業展開を行う

同社は、常に新しい領域へのチャレンジと多角的かつ意欲的な事業を展開し「21世紀の企業の姿」を追求している。井上社長は、「“スダレ”と“金属部品加工”という異分野の事業領域を経営しているが、両部門に共通しているのは独自の技術開発による製品の品質化の追求。そして、多くの顧客に満足を提供することが、わが社のモットーである」と自信に満ちている。同社は、シンボルマークとして掲げている“GENTLE HEART”（優しく、ソフトで次元の高い心）を合い言葉に、全社員で新しい歴史を創造し、一層の発展を目指している。

(武村、丸尾)